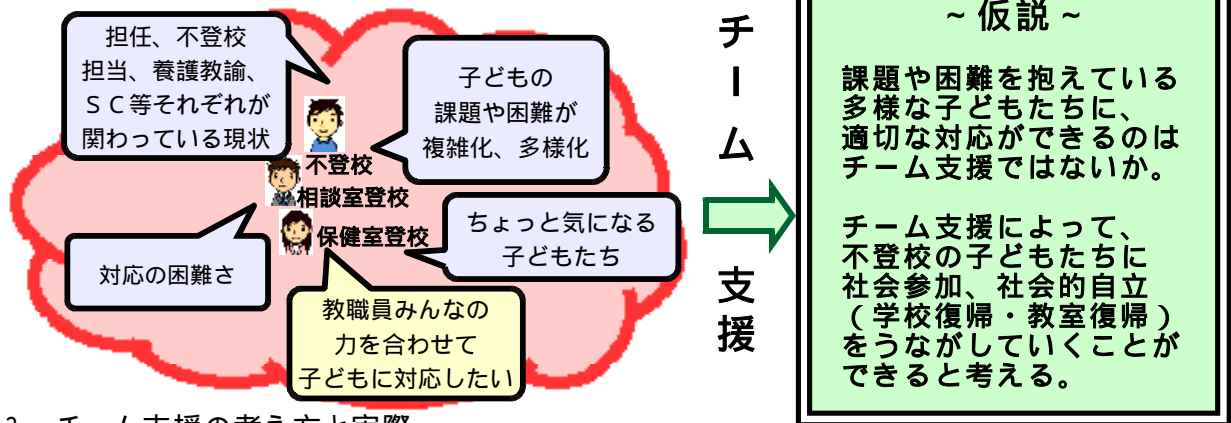


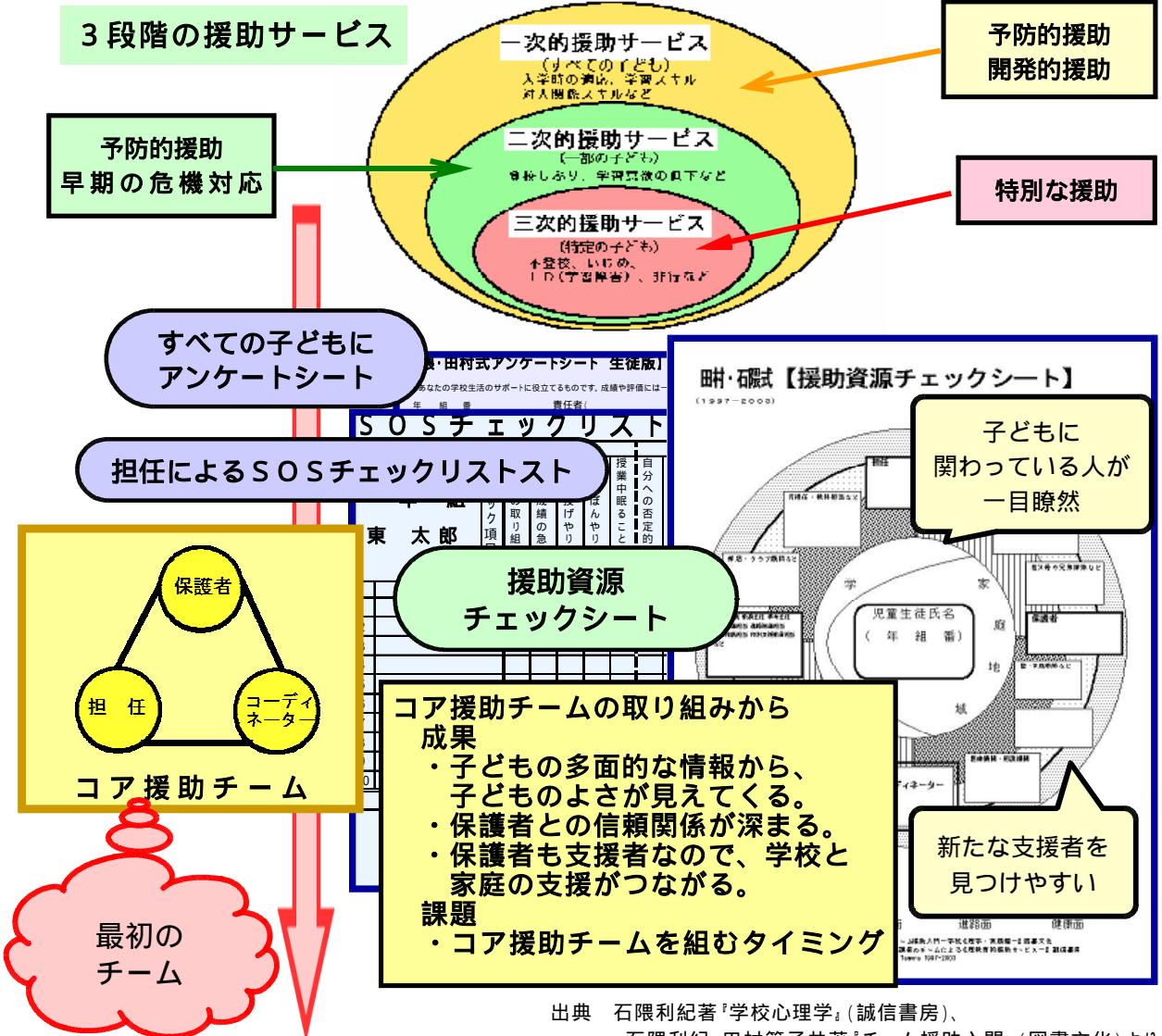
# 課題や困難を抱えている子どもたちに応える支援のあり方 ～不登校の子どもたちへのチーム支援～

鳥取県教育センター 教育相談課 長期研修生 豊岡克芳

## 1 主題設定の理由

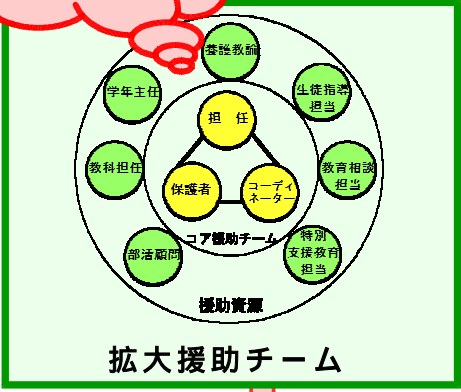


## 2 チーム支援の考え方と実際



必要に応じて校内の先生が参加

### 援助チームシート



援助案を考える 取り組み

「いいところ」から子どものよさが見えてくる

よさを確認し合うとチームの雰囲気がよくなる

今までの支援について確認しやすい

これからの支援を考えやすく、役割分担が明確になる

KJQ調査

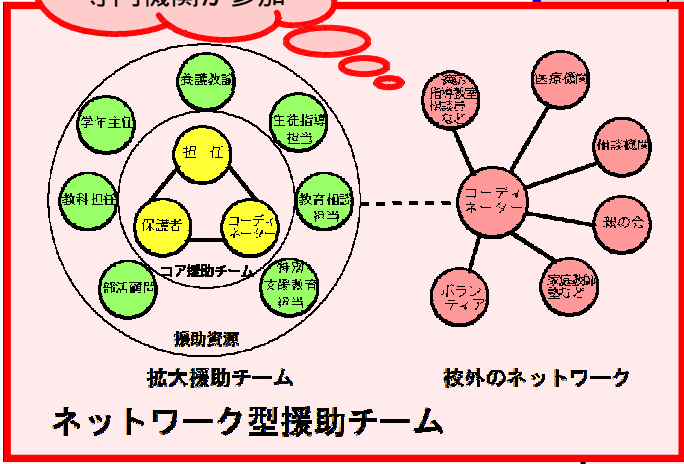
子どもの状態を知る 取り組み

57の質問に答え、自分で採点し、結果シートを作成

結果シートから、こころのエネルギーと社会生活の技術のよつすが分かる

自分を発見し高めていく力を引き出すことができる

さらに校外の専門家や専門機関が参加



### ネットワーク型援助チームの取り組みから成果

- ・ 専門家や専門機関に相談でき、アドバイスを生かして支援ができる。
- ・ 支援者の立場を生かした対応ができる。
- ・ 校外のネットワークにより、卒業後の地域支援につなぐことができる。

### 課題

- ・ チームが全体としてまとまりにくい。
- ・ 支援者の役割が重複すると動きにくい。
- ・ チーム会議などの時間や情報の共有のコーディネートがむずかしい。

### 3 研究のまとめ

- ・ 保護者、校内の先生、外部の専門家や専門機関が参加して行うチーム支援は、より「適切な対応」ができると言える。課題や困難を抱えている子どもたちに、チーム支援は有効である。
- ・ 必要に応じて、コア援助チーム 拡大援助チーム ネットワーク型援助チームとなるが、コア援助チームがチーム支援の基本である。
- ・ 情報の共有をしていく手立てとして、援助チームシートなどを活用して話し合うと効果的で時間短縮できる。

チーム支援のポイント！

人をつなぐ  
コーディネーター

出典 菅野純グループ編「KJQ調査」(実務教育出版)